

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 りんどう		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設内の環境を療育プログラムに合わせて変え、対応が出来るようにしている。	学習の部屋、活動をする部屋を分け、こどもが気持ちの切り替えをしながら取り組めるように配慮している。 また、個別支援が必要な子には落ち着いた環境で学習が出来る空間になるよう配慮して支援している。	活動の内容によって、こどもの人数に偏りが出来ないようにするため取り組みの選択肢を増やしながら行っていく。
2	職員会議や研修が多く、職員間での情報共有や連携がしやすい環境にある。	保護者の方や学校、学童の先生からお聞きした情報は職員間で共有し、その日の療育が適切に実施出来るようにしている。	日々変化することもたちの様子に合わせ、適切な支援が提供できるよう、一人ひとりの子にあった目標設定をしながら支援を行う。
3	日ごろから子どもの状況を保護者と共有し、共通理解をしながら支援を行っている。	送迎時やLINEの活用、連絡帳等で子どもの情報共有を行い、子どもにとっての最善の利益を優先して支援を行えるように努めている。	家族からの子育ての悩みに適切に応じ、きょうだい児への支援にも広げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	トイレの手すりや室内の段差などバリアフリーの対応が出来ていない箇所がある。	家庭的な空間であるため、改修が追い付いていない。	今後、子どもたちにとってより良い空間にしていくためにも計画して改修を行っていく。
2	地域の機関との交流が少ない。	学習支援を中心としているため、国語、算数、英語の学習を施設内で取り組むことが多くなっている。	長期休暇中などにお店でのお買い物学習や児童館での交流の場を確保するなど計画をしている。
3	現時点以上の職員数の増加が出来ていない。	求人をしているが、応募の数が少なく、なかなか確保に至らない。	資格がない場合でも採用後の資格取得や研修会等への参加を支援しながら、キャリアアップを目指せる体制を整え、人材育成をしていく。